August 2009
徳島県博物館協議会ニュース
NO. 31

＜目 次＞

「これからの博物館の在り方について」 ……１・２
「今，わが館では…」 …… ３
○県立近代美術館　○阿波木偶人形会館
○上板町立歴史民俗資料館　○県立阿波十郎兵衛屋敷
「情報コーナー」 ……４
○県立佐那河内ふれあいいきものの里
○Ｊパワーよんでん Waンダーランド
○鳴門市ドイツ館
○阿南市阿波公方・民俗資料館

これからの博物館の在り方について

ー利用者をどう理解し，利用につなげていくか＜展示開発を例に＞ー

ハンズ・オン　プランニング代表　ミュージアム・アドバイザー　染川 香澄

＜講演会要旨＞

１．利用者にとって親しみやすい博物館とは

私は，米国の大学でミュージアムエデュケーションについて学ぶ機会を得たことがあります。ミュージアムエデュケーションとは，子どもと博物館をつなぐためのサポートをどう行うかというものです。アメリカの博物館では，子どもたちが遊びながら学ぶ姿をたくさん見てきました。私のこれまでの経験から言えることは，博物館の協議会委員や運営委員の方々も利用者の立場に立って博物館の在り方をしっかりと考えていただきたいということです。平成 19 年開館の兵庫県立考古博物館にも 6 年間ほどかかわったことがありますが，そのときも，「デザインに凝り過ぎず，商売に走り過ぎず，専門的になり過ぎず」ということを念頭に置いてやってきました。

利用者にとって親しみやすい博物館を考える場合，場所や周辺の環境もありますが，ハンディキャップのある方から専門家に至るまで，様々な利用者を想定しなければなりません。

２．国内外の展示開発例

私がかかわっているのは「ハンズ・オン」，つまり実践的とか直接参加とかいうことでしょうか，そんな展示をめざしています。そこで，ここでは展示に絞って考えてみたいと思います。

展示は，ふつう受け身で見られることが多いものです。それだけに，展示をつくりだしていく段階では，どれだけ見る人のことを考え，理解した上でつくっていけるのかが重要です。そして，それが受け身的になってしまう展示ではなく，自分の好き勝手に見られる展示，つまり，観覧者本人が主体的に見ることができる展示をめざしたいものです。「ア，ハーン（あ，そうか）。」

の展示といわれるもの，30 秒止まって見られる展示などがこれにあてはまります。

また，大自然での野生の状態を直接見ることはできなくても，博物館で見ることができるといった展示の利点をどう生かしていくのかといったことや，たとえ瓦一枚の展示であっても，その裏にある壮大な歴史を感じさせられるのかどうかといったことが，展示開発としては大きな勝負になると思います。

人は，学び直しをしたときの方が頭によく入るといわれています。このことから，学び直しの機会をどう演出するかということも，展示開発の上において重要な要素となっているのです。

展示してあるモノに好き嫌いのある場合もあります。同じモノでも人によって好みがちがうので，いろいろなパターンで展示を見せることが必要となってきます。自分の好きなパターンで自由に見てもらうことができるのがよいのです。

また，「ハンズ・オン」ではあっても，生態展示ではなく，段ボールを使った展示（段ボールの展示は流行っ

ています。コスト面でも安いようです。）をしているところもあります。

私の印象に残っている展示の一つに「大アマゾン展」があります。ふつう，魚を見せようとして水槽を透明にするものですが，展示してあったものは濁っており，妙にリアルだったのです。

陳列ケースだけの展示においても，一工夫すれば，うんとわかりやすくなります。例えば，モノの説明の横に実際にモノが使われているところの写真を置けば，たいへんよくわかります。また，文字だけの説明に現地の写真がプラスされれば，教科書的ではない心を動かすものとなるでしょう。

このように，展示は直観で分かってもらえるかどうかということが重要です。モノの横に拡大写真を置くだけで，「じっくり見て。」と言わなくてもよく見てもらえるものなのです。写真とモノを合成した展示も，体験の思い出しによる理解が進むことがあります。

外国では，川向こうのビル群をじっくりと眺められる場所をつくっている博物館があります。向こう岸のビルを望遠鏡でよく見ると，その壁石にはいろいろな化石が入っているのです。環境をうまく利用した例といえるでしょう。

また，イギリスの博物館では，館内めぐり用のバッグを入口で貸し出しているところがあります。バッグの中身は，案内用リーフレットのほかに，展示品に対する興味関心を高められるグッズが満載なのです。展示と同じ模様を探すものやゲーム仕立ての案内グッズなどいろいろと入っています。また，トイレの中にも展示しているモノのイラストや説明を大きく貼り付けるなど目立たせてあるのです。このように，至る所にこれでもかとばかりの工夫が施してある博物館なのです。日本とは違った発想は参考になるでしょう。

３．展示，それは利用者の経験

展示と自分の経験とをつなげる実践例を紹介します。特に，「あまり見てもらえない展示に脚光を」ということで取り組んだものです。

それは滋賀県立琵琶湖博物館が行ったもので，利用者にはがきを送り，利用後の評価をしてもらったものです。評価のためにとりあげた展示の概要は，次のようなものです。

・漁師さんの帽子貸し出し
・乗った舟が琵琶湖のどの辺にいるのか分かる工夫
・投網体験ができる場所の設定（紙の魚）
・航空写真
・双眼鏡で周りを見る

この展示については，館内で子どもたちが「どこで」「どうするか」をよく観察し，評価を行いました。その上に，利用者の家庭へ送ったはがきには，「家に帰ってから，子どもが何を話したか，何をしていたか」を書いてもらいました。その結果，利用した家庭の子どもたちは，琵琶湖で釣りをしている人にいろいろとたずねたり，漁師であった祖父に質問して家族内の会話が増えたりしたという例があったそうです。このような評価をすることで，これからの展示開発に活かそうとしたものなのです。

兵庫県立考古博物館では「遊びにおいでよ」ということで，館内のディスカバリールームや発掘ルームなどで大いに遊んでもらいました。また，その際，出口インタビューも行いました。ハンズ・オン展示しか見ていないと思われる子どもたちにとって，何があれば喜ぶのか？・・・・・・

このときの評価を通じて，われわれが学んだことは，子どもたちの遊びの中に「ものを見る物差し」を与えられるかどうかでした。そして，それを子どもたちに，いかにたくさん与えられるかが展示開発する側に問われているのです。

展示は，博物館にとって大切な発表の機会でもあります。また，展示は利用者の経験でもあります。どうやったら，その人独自のよい経験ができるのか。それによって，親しみやすい博物館になるかどうかが決まってくるのです。

たとえば，親のなかには「自分が理科が苦手だったので，子どもにはそうさせまい。」として，子どもを科学博物館へ連れて行こうと考える人があります。しかし，その時に一緒に来た親自身が展示を分かりにくいものと感じれば，「やっぱり私は苦手だ。」ということで，もう来なくなるかもしれません。

このように，その人にとってよい経験ができなければ，もう博物館には来ないということになるのです。博物館にとって，利用者につながる展示こそが命なのです。　　（2009.6.3　徳島県博物館協議会講演会）

＜著書など＞

「ハンズ・オンは楽しい－見て，さわって，遊べる こどもの博物館」（工作舎）共著

「ハンズ・オンとこれからの博物館－インタラクティブ系博物館・科学館に学ぶ理念と経営」（東海大学出版会）ティム・コールトン著，染川他訳，2000 年

「だれもが楽しめる ユニバーサル・ミュージアム」（読書工房），共同執筆，2007 年

「今，わが館では…」

徳島県立近代美術館

「おもろいやつらー人間像で見る関西の美術」

徳島県立近代美術館では８月30日まで「おもろいやつらー人間像で見る関西の美術」を開催しています。

この展覧会は近代美術館のコレクションの方針の一つである「20世紀の人間像」を「関西の美術」という切り口で，全27作家，51点の作品で紹介するものです。「おもろい」といっても，全ての作品を一貫した主義や様式などでとらえているものではありません。それぞれの作品にそれぞれの「おもろさ」を見つけようというものです。それは，作家の発想の「おもろさ」でもあるし，作家自身の「おもろさ」でもあるのです。

皆さんも是非展覧会に足をお運びいただいて，それぞれの「おもろさ」を探してみてください。

（吉川神津夫）

〒770-8070 徳島市八万町向寺山
Tel. 088-668-1088

阿波木偶人形会館

「木偶人形の鑑賞」

阿波木偶人形会館は，人形師「人形健」初代。二代目制作による木偶人形（浄瑠璃人形）をおよそ100本展示しています。入館の方には，人形制作過程などの詳しい説明や，人形芝居のテレビ（ビデオ）放映もしています。世界一ジャンボかしらや，最新作では酒呑童子（特大木偶）一部自動仕掛けありなど必見です。館内展示物は順次入れ替えも行い，研鑽努力を続けております。

徳島県立総合大学「まなびーあ徳島」の連携講座では，美術工芸部門による講座「木偶（浄瑠璃）人形の鑑賞」もあります。

〒771-0114　徳島市川内町宮島本浦226-1
Tel. 088-665-5600

上板町立歴史民俗資料館

当館では，３月31日から４月５日にかけて特別展「遊山箱展」を開催しました。

この展示は，県東部を中心に使用される遊山箱（遊山の時に使用する携帯用弁当箱）を通じて，郷土文化への興味，関心を深める目的で行ったものです。

町内で収集されている方から遊山箱等を借用し，遊山箱を時期・特徴から，①江戸時代・明治時代（外箱は黒色・茶色，漆塗り，取っ手は真鍮・鉄，大型のものが多い），②大正時代～昭和10年代（外箱・取っ手・塗は①と同じ，①のものより小型化，内側に赤色・緑色・黄色の三色で塗られたものがあらわれる），③昭和20年代以降（外箱は赤色・青色，取っ手はアルミ，塗はカシュー塗料，カラフルな色合いが多い）に分類し解説しました。

見学者からは，「懐かしい」「使ってみたい」「作ってみたい」等の意見を聞くことができ，今回特別展の目的を果たせることができたのではと思っています。

〒771-1310　板野郡上板町泉谷字原中筋8-1
Tel. 088-694-5688
（上板町教育委員会　Tel. 088-694-6814）

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

「阿波人形浄瑠璃公演」

阿波十郎兵衛屋敷は郷土芸能の阿波人形浄瑠璃を平日11：00～土・日・祝日11：00～・14：00～と毎日上演しております。特に阿波踊り期間の８月１１日～１６日は11：00／14：00／15：30と太夫，三味線付で３回上演いたしております。

又，１０月３日(土)～１１月３日(火･祝日)は「ジョールリ100公演」として徳島県下のいろいろな場所で公演を致します。阿波十郎兵衛屋敷でも毎日11：00／14：00の２回公演となりますので，ぜひご来館をいただき，伝統芸能をお楽しみ下さい。

〒771-0114　徳島市川内町宮島本浦184
Tel. 088-665-2202

情報コーナー

佐那河内いきものふれあいの里

常設展示の他に次の展示をしています。

「愛鳥ポスター展」

平成２１年度　愛鳥週間ポスター原画コンクール優秀作品を３０点展示しております。

本年度より新たに，夏の夜にふさわしい「夜の観察会」を始めました。

・ ７／１８「光に集まる昆虫」
・ ８／２９「水辺の昆虫」
・ ９／２６「雑木林の昆虫」

主としてキャンプ場の宿泊客を対象に行います。

・７／２５，８／２２「夜の鳥を聴く」，夜行性の鳥の生息状況確認を行います。

〒 771-4102 名東郡佐那河内村上字大川原 5-8
Tel. 088-679-2238

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

Ｊパワーよんでん Wa ンダーランド

当園は，電源開発㈱と四国電力㈱の橘湾石炭火力発電所の対岸に位置する体験型施設です。屋内の展示コーナーでは，さまざまな「ふしぎ」に好奇心がふくらみ，発見する喜びを味わえます。

また，屋外には Wa ンダーグラウンドをはじめ，趣向をこらした遊具や四季を彩る花畑などが広がり，元気に体を動かしたり，ゆったりとリフレッシュしたりできます。

＜８月～１１月の催し物案内＞

・７月２０日～８月３１日
　夏休み　橘湾石炭火力発電所 個人見学会
・毎月第３日曜日（8/16，9/20，10/18，11/15）
　サンデーイベント「スウィーツ貯金箱」他
・８月９日
　ふしぎ発見工作教室
　「発泡スチロールをリサイクルしよう」
・１１月８日
　徳島インディゴソックス野球教室

〒 779-1620　阿南市福井町舟端 1 番地
Tel. 0884-34-3251

鳴門市ドイツ館

ドイツ食文化フェア　～オクトーバーフェスト～

2009 年 9 月 21 日（月）・22 日（火）
10：00 ～ 16：00

会場：鳴門市ドイツ館大ホール（ホール入場料無料）

ドイツに関する販売ブース多数ご用意しております。

・ ソーセージコーナー　　・ ビールコーナー
・ ワインコーナー　　・ お菓子コーナー
・ 食材コーナー

【お問い合わせ】鳴門市ドイツ館
〒 779-0225　鳴門市大麻町桧字東山田 55-2
TEL（088）689-0099
FAX（088）689-0909

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

阿南市阿波公方・民俗資料館

特別展「国会議事堂の石—議事堂に使われた阿南市および那賀町産大理石」

阿波公方・民俗資料館では，特別展「国会議事堂の石—議事堂に使われた阿南市および那賀町産大理石」を県立博物館と共催のもとに９月２５日より１１月５日までの期間に開催予定です。これは国会議事堂に使われた７種類の徳島県産大理石について，議事堂内での使用箇所や石切場跡の写真パネルと関連資料など，県立博物館蔵のものを展示いたします。

〒 779-1234　阿南市那賀川町古津 339-1
Tel. 0884-42-2966

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

＜編集後記＞

今号は，６月３日（水）協議会総会後の染川香澄氏の講演について要旨をご紹介しました。数々の博物館における展示や評価にかかわられた氏のお話には，多くの示唆を得られるものと思います。

さて，今号は寄せられた原稿が少なく，２ページの減となっています。次号からの皆様の寄稿をお待ちしておりますので，よろしくお願いします。

徳島県博物館協議会ニュース№ 31
平成 21 年 8 月 1 日　発行
編集・発行者
〒 770-8070
徳島市八万町向寺山
徳島県立博物館内
徳島県博物館協議会事務局
TEL．088-668-3636
FAX．088-668-7197